

湯島小学校訪問

2018年6月26日

日米教育者交流活動の一環として、今回はアメリカのコロラド州の複数の小学校から先生たちが来日し、東京都内の複数の小学校への訪問および交流授業が実施された。本報告は、そのうちの一枚である湯島小学校に訪問したトリッシュ先生（フラトアイロンズ小学校）、ジル先生（ネダーランド小学校）、ジェイミー先生（ネダーランド小学校）の研究授業について記録したものである。本報告者は、通訳や機器の運搬等の手伝いをしつつ、授業や諸活動の様子を観察する立場であった。

活動は、挨拶や給食の交流を含めると、1年生から6年生までの全校の様々なクラスで行われた。授業はいつもトリッシュ先生の挨拶とHelloダンスから始まった。“Hello, we are from Colorado. First of all, I want to say Hello!” その後も最低限の通訳や担任の先生のヘルプがありながらも、授業はコロラドの先生方のリードによって英語で進行された。コロラド紹介のためのスライドは、地図や写真、動画で構成されており、コロラドの両小学校の先生たちが自校の児童たちとともに制作したビデオを児童たちは興味津々に見入っていた。

学校紹介の後は、コロラドの動物の紹介である。これは、「This animal is a____.」のセンテンスの練習も兼ねていたが、次の作図（コロラドのライオンを、紙を張り合わせて作る）の活動へ接続するようにも設計されていた。制作活動では、先生と児童のそれぞれ個別に会話が生まれていた。コロラドの先生方が、「できない」と紙をみせる男児に対して「You can do it!」と励ます、「Thank you!」との言葉に「You're welcome. Good English!」と返事をする。このようなコミュニケーションが、報告者の横目に映るほど自然に発生していた。小学校の先生方が互いに協力する中に存在する学びと、それによって（そうだからこそ）生まれるこのような教室という空間こそが、今回の教師の日米交流の醍醐味であるのではないかと思う。

(修士 長江侑紀)



制作活動をするグループの中で、活動を見守るジェイミー先生